

6/17

『全共闘』一派の暴力を怒りをもって糾弾する

法大生・集団リンチでひん死の重傷

『全学連』支持の会議 6/17

『法政大生共闘』による白色テロの真相を明きらかにする！

六月十日、法政大にさう「全共斗」暴力分子は一部自治会に結集する学友に対し、石、木、コーラのビン、火炎ビンを投げつけ、四十数人の重軽傷者を出した。この真相を知らせようとした、十一日午後二時すぎ、法大一部「全学連」開催実行委員会に結集する学生約五十人に、『全共斗』一派は完全武装でイスなどをもち、ついでいかかり、その中の一人、貴田君を彼等が不法に占拠している図書館につれ込み、なぐるけるの暴行を加えた。図書館では、彼等は「場所をかえろや」といながら貴田君の頭からシートをかぶせ、上に連れていってしばらくつけ、「学部民青は何人いるのか、日共は何人か、今日の方針をいえ」などと言いつつ、角材や皮ベルトでなぐりつけた。また、「革マルのように山奥につれていくぞ」などとおどしなから「頭を坊主にしてもよいなら毛を一本ずつぬいてやる」とも一本一本ぬきそのあとに塩をぬりこんだのである。

そして「全共斗」一派は、厚顔無恥にも「三階から落ちた」と偽って、学生課の職員に、暗幕をつんだ貴田君をみえしてよこしたのである。貴田君は二夜あけて、いとおつショックは能く耐えたが、依然重傷である。

『全共斗』の暴力によって全学連のものが破壊されようとしている！

全学連の学友は、この残虐なリンチ事件に対して、厳しい糾弾の声をあげねばならない。この事件は、封鎖や封鎖の解除をめぐる争いの中で『全共斗』の暴力によってテカへが出たという問題とちがって、何の理由もないのに、ただ全学連を支持しているという理由でもって、極めて計画的に監禁暴行を加えられたものである。

『全共斗』は民主主義の破壊者である。貴田君に対するリンチ事件の本質性格は、第一に

単に全学連の活動家に加えられた攻撃ではなく、民主主義を標榜し民主主義に敵対する行為であるという点にある。貴田君は、民主的な学生運動自治会に勝つとつてきた当然の権利にもとめて学内集会を準備していたのであり、中核系が貴田君たちを襲撃したのである。

この事件は、学内における集会の自由言論の自由政治活動の自由に対する攻撃以外の何ものでもないことは明きらかである。もしも『全共斗』一派が、学友の集会言論政治活動の自由を、暴力でもって奪うことを放置しておくならば、民主主義の権利は一切くずれなくなり、大学の中には、腕力の強い者、より凶暴な者の破壊の自由しか残らないであろう。

『全共斗』は大学の自治学問の自由の破壊者である！

第二の問題点は、それが大学の自治学問の自由を内閣から破壊し、科学と文化社会の発展に敵対する行為であるということである。我々はいつた何のために大学の自治を要求し、これを擁護するために闘うのか。それは、大学における研究教育創造活動を正統にやりとげるために、真に自由で科学的批判的自主的精神が必要とされるからであり、人間としての精神の自由魂の自由があつてこそ、科学技術文化芸術の民主的発展を勝ちとることのできるからである。

『学内から『全共斗』の暴力を一掃せよ！』我々は『全共斗』一派のテロリンチを断固として糾弾し、全学連の民主的活動言論集会の自由を彼等の暴力から防衛しなければならぬ。彼等の不当な暴力から、集会や校舎等を適切な防衛でもって守りぬくことは、法律でも許された当然の権利である。今こそ全学連が団結して、彼等の暴力を学内から一掃しようではないか。